

新会員スピーチ ●北村 博会員

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える」



今日は、貴重な時間を頂き、ありがとうございます。4月より入会をさせて頂きました有限会社 BLOOM、北村 博と申します。どうぞよろしくお願い致します。

最初に、私の好きな言葉で森 信三さんの「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」があります。この度の発表の資料を作成するに当たり、本当に多くの方に出逢い、助けて頂いていることに気づくことが出来ました。この機会を頂き本当にありがとうございます。

最初に、私は 1971 年 3 月 21 日にたつの市に生まれました。両親が博士のように立派な人間になってほしいと願いを込めて「博」と名付けたと聞かされていましたが、「博徒」となってもたくましく生きることが出来るようにとの意味もあることが、父が亡くなる 2 年前に判明し驚きました。

私は、幼い頃から落ち着きのない子供で、3 歳のころ庭で遊んでいると思ったら姿が見えなくなり、探し回っていると警察に保護されパトカーに乗って帰って来たそうです。また、小学校に入学してからは、自転車で校区外の友達と遊びによく行くため、見かねた母親からカブスカウトに入団するように言われました。しかし 1 年後、学校のサッカー部の先生から「練習を見に来ないか」と言われ練習に体験で参加すると、帰り道で先輩から「サッカー部員以外が部のボールを触ると、コーチに殴られる」と言われ、不本意ながらも入部し、そこから中学、高校、大学、社会人になっても続けていくスポーツとなりました。

そして、大学時代には、アポをとリアルバイトの面接に行ったはずの京都中央卸売市場のお店がなぜか閉まっていて、そのままウロウロしていると前の店の社長が尋ねてきてくれて、事情を話すと「そこより 100 円高い時給でうちで働き」と言われ、そのまま卒業までバイトをしていました。その時に、お店で仕入れた魚を知り合いの主婦の皆様へ販売して、さらに小遣いを稼いでいました。その頃から「何か事業をしたい」と思うようになりました。

大学卒業後は、建設機械販売の営業として豊岡の方へ赴任となりました。但馬地方の方々は優しいことと、私が若く愛想が良いことが幸いしてか、お客様がとても可愛がって下さり、お昼や夕食に「おかずを取りにきんせえ」などと声をかけて頂き、週の半分はお客様宅で頂くような生活をしていました。時々予定が重ねることがあり、途中で胃薬を飲み少し走って、おなかを減らしてから参上することもあるほど可愛がって頂きました。いまでも、あちらに行った際には「食べていきんせえー」と言って頂けるくらい大事にして頂いています。

そんな生活を 5 年ほど続けていくうちに、昔からの「企業したい」という想いが強くなり現在の介護業界に転職をしました。介護の世界は初日から刺激的で、みなさんに挨拶をするとある方から「私あなたの顔が嫌い」と初対面で言われました。その方とは、のちのち仲良くなり当時の話をすると「主人に似ていたから」と何もなかったように笑って事実を伝えられたことを覚えています。その後も勤務していく中で、流れ作業と毎朝の「はぁ、今日も生きてもた」という利用者様のつぶやきが辛くなり「みんなが、朝起きて今日は何しようかとワクワクする場所を創ろう」と思い起業しました。友達が「龍野空き家データバンク」に所属しており、現在の中霞城の場所を紹介して頂き無事に開所となりました。当時は、民家を使い毎日ドライブがある事業所が珍しかったため、利

利用者だけでなく、働きたいというスタッフさんも集まって下さり、同じように民家を使った事業所を、太子町を含め4か所展開することになりました。

ところで、皆さんは「介護業界の人材不足」を耳にされたことがあるのではないのでしょうか。業界全体として6人に1人が1年間に辞めていき、その辞めていく人の6割が3年以内に辞めているとのデータがあります。おかげさまで弊社はそうでもないのですが、以前に勤めていた施設でもその状態でした。福祉の仕事は、高齢者や障害者、児童、地域など様々な分野があります。また、高齢者分野だけでも老人ホーム、デイサービス、ヘルパーなどの事業がたくさんあります。つまり、離職の原因が職場と本人のミスマッチングにあるのかも知れないと思い、学生時代から業界特性と自身の特性が分かれば離職率が減るのではと考え、「大学の講師になろう」と思いつきました。

知り合いの教授に相談すると「この資格を取りましょう」と言われ、取得することから始まり、アドバイスをどんどん頂きながら5年目ほどかかりましたが、大学講師になることができました。いまは、微力ながらも学生さんたちに直接現実を伝えることが出来ています。

会社を始めて15年も経つと、当時は75歳だった方が90歳になります。「自宅では住むことできないが、老人ホームには入りたくないから何とかして」という相談を本人様や家族様より多く頂くようになりました。そこで、伊藤会員が自治会長をされている北龍野にご縁ができてサービス付き高齢者向け住宅「嘉風」を開所することとなりました。しかし、嘉風の開所の頃からコロナが始まり、利用者様やスタッフさんがコロナを見舞われ事業が休止することがありました。それを経験することで、今の弊社に足りない仕組みやサービスを考える良い機会となりました。

その中の一つが、海外実習生の教育事業です。私たちは、介護の勉強を教える機関として講習を行っております。その際に実習生より日本の文化や礼儀などを尋ねられる機会が何度かありました。それをどこで学べば良いかを考えているときに、池田会員に会う機会があり、相談すると龍野ロータリークラブを出会い、このたび入会をさせて頂くこととなりました。

振り返ると、本当にたくさんの方にベストなタイミングで出会い導いて頂き、今に至っていることを感謝しております。また、4月の例会では本條会長より「これから一皮むけるようにもっていきましょう」言って頂きました。そのことも楽しみにしながら、これから先の新たな学びの場として皆様からのご指導やご鞭撻を賜りたいと思います。これから、どうぞよろしくお願い致します。